

2021.11.11 (木)
第13回例会
(通算3640回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平
副会長 浅川 正紳
幹事 市橋 多佳丞
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2021-2022年度
国際ロータリーテーマ



幸仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度
RI会長 シェカール・メータ
第2500地区ガバナー
漆崎 隆 (釧路ベイRC)

月間テーマ	ロータリー財団月間
本日のプログラム	釧路ロータリークラブ創立 85 周年記念例会 Part1 (担当：理事会)
次週例会	釧路ロータリークラブ創立 85 周年記念例会 Part2 (担当：理事会・親睦活動委員会)

■ロータリーソング：四つのテスト

■ソングリーダー：荒井 剛君

■会員数 103名

■ビジター なし

■ゲスト なし

会長の時間

杉村 莊平会長



皆さん、こんにちは。皆さまのおかげをもちまして85周年記念例会をコロナの影響も受けず、無事開催することができました。本日は

「パート1」ということで、来週の夜例会は「パート2」ということでお世話になりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

この例会を開くに当たっては5周年ということもあり、あまり対外的な要素を入れずに、今日のこういう落ち着いた雰囲気の中で歴史を振り返る例会にしたいとの思いがあってこのようにさせていただきました。

今週・来週とベテランメンバーの方々にお話いただきますが、これまでの先輩がどのように歴史を紡いできたのかに思いを馳せていただきながら、次の90周年につながる例会にできればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

85周年ちなんでの会長挨拶、歴史を振り返るパート3でございます。皆さんのお手元にあります、嵯峨記念育英会でおなじみの嵯峨晃さんについてお話したいと思います。

嵯峨晃さんは、明治38年に函館でお生まれになって

おります。釧路中学校から法政大学に進みまして、嵯峨漁業に入社するところですが、エレクトの時代に嵯峨さんを少し調べましたら、「昭和40年くらいの釧路新聞に、日経にある『私の履歴書』のところに嵯峨さんが載っていた」という情報を聞きつけ、釧路新聞の資料室から探してきたのが皆さんの手元にある資料でございます。

それを見ますと、嵯峨さんは大学を出るまでは家業を継ぐ気はまったくなく、半ば勘当状態で演劇に心血を注いでおられたのが分かります。釧路に戻ってきてからの心境も詳しく綴られております。浅川副会長が一生懸命コピーしましたのでぜひお持ち帰りいただければと思っております。

ちなみに嵯峨さんは、昭和40年にガバナーを務められますけれど、昭和40年ころは北海道がまだ1地区で、「ガバナーは函館・札幌・小樽からしか出せない」という暗黙の了解があったように資料で見ました。その中で、2地区になるまでの24人中のガバナーのうち、両角克治さん、嵯峨さん、旭川の岡田さんの3名だけが3市以外からガバナーになったという記述も残されておりました。

数々の成績を残された嵯峨さんが昭和47年に69歳で亡くられております。ご冥福をお祈りしたいと思います。

こんな資料を持ってきた私ですので、もう今年度会長

の役割は全うできたかなと自負しているところですが、もうひとつ皆さまにぜひお知らせしたいことがあります。

嵯峨晃さんには、釧路クラブにも在籍されました嵯峨誠さんという息子さんがおりました。ご存じない方が多いかもしれませんが、ご紹介をさせていただきます。嵯峨誠さんは昭和14年にお生まれになり、日進小学校・東中・湖陵高校・拓殖大学という経歴があって、嵯峨漁業に入社されております。残念ながら、昭和56年に41歳の若さで亡くなられております。嵯峨さんは三代に亘って釧路クラブにご在籍されてご活躍されていたこととなります。

実は、天方さんのお父さんと昭和14年生まれの同い年でして、青年会議所時代からの親友だったという記述があります。その嵯峨さんが亡くなられた時に嵯峨誠さんの人柄が偲ばれる追悼文を見つけましたので最後にそれをご紹介させていただきます。読ませていただきます。

追悼文

嵯峨誠、ごつい体の上にかつい顔を乗せていた。体とは似合わない声。そんな、まこ（誠）と出会ったのは十数年前。それ以来、ずいぶんいろんなことがあった。仕事・社会・友・人生、そんなことを大きな声を張り上げて明け方までお酒を飲んだ。

お前の悪口・雑言を言い合おうと、昭和14年の生き残り7名が某所へ集まった。その時に出た中から、お前に聞かせたいことがあるからよく聞けよ。

まず、お前は無責任だ。そうだろ、男がだぞ、女房・子どもを泣かせておいて、知らん顔してお前だけ勝手に行きやがって。それで済むわけがないぞ。それにだ、俺たちとの約束をどうしてくれる気だ。

まこ、お前は馬鹿がつくくらい頑固者だ。お前と議論したら、こっちは辟易するくらい自分の言い分を曲げようとしなかった。長生きしていい分、短い間に全部言い張ったか。

ともかく、お前が行く某所で延々6時間、まこの歌はどうの、まこの癖はどうの、とか悪口・戯れ言の数々を並べて言ったつもりだったが、どいつもこいつもしょぼくれてしまって、酒は結構飲んだが生きながらえない日だった。つまるところ、みんな、お前が好きだということだな。

という文章でございますが、天方さんのお父さんの人柄まで偲ばれる文章だと思います。嵯峨さんには、せめて70歳くらいまでお元気でいてもらいましたなら、われわれの前でかっこいい先輩として立たれていたのかなと思っております。

こういう先輩たちが情熱を傾けてきたのが、今の釧路クラブだということにみんな感謝しながら、今日と

来週の85周年記念例会をしっかりと行っていきたくと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

幹事報告 市橋多佳丞幹事

皆さま、こんにちは。幹事報告をさせていただきます。

次年度のガバナーエレクト事務所から「次年度のガバナー補佐予定者が決定した」という通知が来ました。わが第7分区では白糠ロータリークラブの今年度会長の美馬様がガバナー補佐に就任されるというご案内が来ております。後ほど、ホワイトボードに掲示しますので、1～8分区の皆さまが載っておりますので確認をと思います。合わせて、次年度のスケジュール、P E T Sならびに地区研修協議会・地区大会の開催日程が確定したというご案内、そちらもホワイトボードに掲載させていただきます。皆さま、スケジュールの調整をお願い申し上げます。

最近、事務局のメールに不調が見られております。皆さまに配信するさまざまなスケジュール等々が届いていない方がいるというお話を受けて、先日確認しておりますが、現状、皆さまにお渡ししているご案内を私をご紹介させていただきます。

まず1つ目ですが、来週に行われます創立85周年の記念例会パート2「夜間例会」の案内が流れておりまして、この取りまとめの期限が来週の月曜日（15日）までとなっております。こちらを再度確認していただければと思います。

続きまして、「12月例会のプログラム」も流させていただきますので合わせてご確認をお願いいたします。

12月第3例会で「情報集会報告会」を行います、それに先立ちまして炉辺会合を開催させていただきます。炉辺会合のスケジュール並びにグループ分けを皆さまに先日送付させていただいております。こちらも合わせてご確認いただければと思います。

また、12月第4例会は「釧路ロータリークラブ重大ニュース」と題して例会を行います、そこで使用しますアンケートを皆さま方に送付させていただきます。

現状、計4点のご案内が皆さまに届いているかと思っております。こちらも私の報告が終わりましたらホワイトボードに掲載しますので、ご確認をお願いいたします。また、メールシステム不調が続いておりますので、再度、皆さまにお渡しすることもあろうかと思っております。重複はご容赦いただければと思っております。近日中に復活させたいと思っております。

以上、幹事報告とさせていただきます。ありがとうございました。

■本日のプログラム■

釧路ロータリークラブ創立 85 周年記念例会 Part 1

清水 幸彦パストガバナー

皆さま、こんにちは。古い話です。



うちのクラブのスポンサーは札幌と帯広です。札幌ロータリークラブが昭和7年12月3日に設立総会をしまして、翌年の認証です。最初

の札幌クラブの会長は佐藤昌介という方で、札幌農学校の1期生です。ということは1876年にクラーク博士が札幌に来たその時の1期生が佐藤昌介です。この方は後々、うちのクラブと関係しますが、昭和10年にガバナーエレクトととなり、11年にガバナーになったわけで、その昭和11年にうちのクラブができております。

昭和11年というと皆さま、お気づきでございましょうが、東京で陸軍のクーデター未遂が起きて、重臣が5～6人殺されたそんな大変な時代でした。

その11年には、北海道で大日本帝国陸軍特別大演習が行われ、天皇陛下が小樽までお召し艦「比叡」に乗ってこられました。私は小学校2年生で、公園通りでお迎えしましたが、天皇陛下があずき色のベンツに乗って、手を振るわけではなく真っ直ぐ前を見て過ぎて行ったのを覚えています。

その11年に釧路で何が起こっていたか。「釧路ガス」が初めてできた年です。両角克治さんは、それ以外にも忙しかったわけで1年の行事が済んで、うちのクラブが11月23日に発足したわけです。

その年の昭和11年に佐藤昌介先生が地区ガバナーになったわけです。そして、12年の5月14日、当時は全日本が台湾・朝鮮も含めてひとつの地区で、北海道では初めての地区大会が催されました。その時の記録によりますと、上野発の昼の特別列車を使って、それに乗って札幌に着き、札幌で地元の方がたくさん歓迎をしたということです。

当時の札幌は人口が18万人くらい。その北海道の地区大会の様子は札幌グランドホテルの特別資料室に残っております。グランドホテルというのは、日本でも片手の中に入るほどの本式のホテルだったようです。12年5月14・15日の北海道で初めての地区大会に、うちのクラブからは両角克治さんをはじめ何人もの方が出席していたと思います。

お気づきでしょうけれど、その12年7月7日、北京郊外、盧溝橋で志那事変が始まった。古い話で、その年の日本の総理大臣は近衛文麿公爵で、後に昭和20年、青酸カリを飲んで自殺なされた。そして、昭和

14年(1939年)9月1日、ドイツがポーランドに侵攻して世界大戦が始まった。そういうことでロータリーが幕を下ろすことになった。札幌ロータリークラブの最終の例会は昭和15年10月です。札幌のグランドホテルの資料室に載っている。

うちのクラブは飯田要次郎さんが初代会長で、両角克治さんが3回くらい幹事を続けてやってらっしゃる。先ほどお話があったように当時、東北と北海道がひとつの地区になった。その後、北海道がひとつの地区になった。ガバナーというのは札幌・小樽・函館から出ていた。今の2500地区、道東から出た最初のガバナーが両角克治さん、先進的です。それから昭和40年に嵯峨旻さんがなっています。それからしばらくおいて旭川の方がなって、釧路クラブというのは2500地区の歴史のうえからいくと大変立派な所です。

少し予定の話を変えて、うちの誇りとする、小船井さんのことについてお話ししたい。ちょっと偉そうなことを言うけど、国際研究会、つまりリーダーというのは日本から数人選ばれます。これに選ばれるということは大変なことで、北海道の地区から私が最初に選ばれています。それから20年経って小船井さんがなった。

もうひとつ、地区大会にRI会長代理が来ます。これはRI会長の専権事項ですから、うちのクラブでは、地区で最初になったのは私で、数回やっています。小船井さんも5～6回やっていて特筆することは、小船井さんは札幌の地区大会にRI会長代理で出られ、これは大変な評判でした。札幌の人に「釧路には素晴らしい立派な人がいる」と言われました。こんなことで、うちのクラブは誇りすることが沢山あります。こういった形で引き継がれていくことと思います。

それから、嵯峨さんの自伝で、ご自分が亡くなるころ書いていました。昭和47年4月20日です、いま思い出した。当時の地区ガバナーは鷲塚三郎さんという名寄の方です。当時の私はクラブ幹事をしていました。嵯峨さんの告別式の当日に来て、「嵯峨さんの弔辞を書いてくれ」と突然言われて、あの弔辞は2時間ぐらい前から急いでボールペンで書いたのが私です。

釧路地方では、さっきの国際協議会のリーダーだったのは私と小船井さんと足立さん。RI会長代理も私と小船井さん、それから足立さんもやっていますね。うちの地区の中で、釧路というのは優秀なところ。その伝統を受け継いだ皆さん方、どうぞこれからもうちのクラブは立派なクラブだ、大事にして育ててください。

原稿も何も持っていないので喋るの、これでお話を閉じることにいたします。

ありがとうございました。

小船井修一パストガバナー

こんにちは。私は清水先生と違ってあまり記憶力ありませんので原稿用意しました。それを読ませていただきます。



先生は90年ぐらい

前の話なのですが、私の場合は今から65年前、ちょっと古さが新しくなってきました。

今から65年前の1956年、私が小学校2年生の時でした。その年、父親が釧路ライオンズクラブに入会しました。ライオンズのクリスマス家族会で、大人たちが帽子を被って「ウォー」と吠えていたことを今でも覚えています。

釧路で2番目の北クラブの創設は1958年（昭和33年）ですから、1956年の時は釧路ロータリークラブしか釧路にありませんでした。特に「1業種1会員」という形でいろんな業界の中に1人しかいないのです。弁護士さんも1人しかいなかった。泉先生、おひとりだったと思いますが、制度が厳格に守られた時代でした。

釧路ロータリークラブのリチャーターを1950年10月2日に再承認されました。当時、釧路商工会議所会頭だった吉田利和さんを覚えている方いらっしゃると思います。釧路クラブのリチャーター会員で1953年にクラブ会長を歴任しています。吉田氏が社長をしていた会社の常務が私の父親でした。「1業種1会員」のルールでは、吉田会員が在籍している間はロータリークラブに父親は入会することはできませんでした。すでに職業分類に充填されている業種の経営者・専門職の入会希望者はロータリークラブに入りたくても入れなかったのです。変な言い方ですけど、父親はやむなくライオンズクラブに入会したと私は思っております。その意味で、65年前の釧路ロータリークラブは入りたくても入れない、敷居の高い社交クラブでした。

小学2年生の私はライオンズクラブよりもロータリークラブの方が偉い人が入るところなのだ、と思い込みをしたわけです。その思い込みがあったのか釧路に帰ってきて、当時、市議会議員だった割方会員から入会を勧められ入会させていただいた経過があります。私のロータリー歴、先ほどは清水先生にお褒めいただきましてありがとうございます。1983年5月に帰ってきました。1984年1月に釧路青年会議所入会。そして、1984年6月に釧路ロータリークラブに入会しました。35歳でした。当時、市議会議員の綿貫健輔さんも私と同じ例会に来て入会しまして、メンバー数が101名でした。37年前も今も100人というクラブはある意味では稀有な存在であると私は思っております。

ます。

私は1999-2000年の釧路ロータリークラブの会長をさせていただき、その後はガバナーをさせていただきました。入会して37年になります。現役会員で今、私は6番目に古いのです。川合会員と尾越会員は4月に同時入会しています。私は同じ年の6月入会でしたから、3人はほぼ同じ時期に入っています。ちなみに尾越さんは青年会議所に入りましたので、私は青年会議所に行くと尾越さんの先輩になります。だけど、釧路ロータリークラブでは尾越さんが私の先輩です。そういう関係であります。1984年に浦見町に東映ホテルがありましたが、駅前に移転したことに伴い中村隆会員の釧路パシフィックホテルに例会場が変更になってすぐ後の入会でした。

その当時のメンバーには最後のチャーター会員の村上祐二氏、リチャーター会員の北村藤兵衛氏がおられ、村上祐二会員が数年後に例会終了直後に逝去されたことを覚えています。階段から落ちて亡くなりました。そのころの長老が丸ト北村の北村藤兵衛さん、スタンダード石油の山本幸三さん、森口二郎さん、シロアム病院の高岡先生などがおられたことを思い出します。現在の釧路クラブ会員の先代も多く在籍していました。もちろん清水幸彦先生もガバナーを終え、国際ロータリーの研修リーダー、規定審議会代表議員、地区大会会長代理と大活躍をされておりました。そして、三ツ輪運輸の栗林定徳氏。福司の梁瀬誠也氏、白崎建設の白崎功一氏、天方会員の先代の勇氏、登坂会員の先代、浅川会員の先代も元気に活動されていました。また、ロータリー入会の半年前に青年会議所に入会していましたが、釧路クラブに多くの青年会議所会員がおられました。その中で覚えておられますかね、金安時計店の金安時男さんも亡くなりましたが、金安さんから「修ちゃん、青年会議所に入っているならロータリー例会に無理して来なくていいから」と言われたのを今でも覚えています、そういう金安先輩たちのご助言があって、私は無理せずJCの現役時代は、ほとんどロータリーに顔を出していませんでした。無理せず、肩に力を入れなくてロータリー活動させていただいたことで三十何年かロータリアンとして在籍できたと感じています。

釧路クラブの最大の美点はパストガバナー夫妻である。パストガバナーやパスト会長は威張らない。威張ることができない空気があることです。これは清水幸彦会員、泉敬会員のおかげ、と思っているのは私だけではないと思います。

これまで私は国内外の多くのクラブや地区を訪問しました。クラブ、地区でも選挙での混乱、主導権争いの課題などを見てきました。ロータリークラブが「1年交代」を創設以来維持している意味は、クラブは平等・安定という目的があるのを前提に全てのクラブ会員が

クラブ運営をとおして職業人としての研鑽を積み重ねるという目的があるからです。今後とも鉏路クラブが、毎年の会長の皆さまが主体的に活動していただくために、クラブは真にリーダーを支えていくことを願って私のスピーチとさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。

白幡 博パストガバナー補佐



いま、清水先生、そして小船井さんから90年前と60年前のお話、鉏路ロータリークラブの歴史を感じさせていただいた時間だったと思

います。私は入会をして30年と少し経っていますので、ちょうど30年前に入ったころの私自身のちょっとした思い出、まだ残っています話をしてほしいと思います。

ひとつは委員会です。もちろん、皆さんと同時に委員会活動するのですが、委員長と副委員長の関係のお話をひとつ。当時、私は副委員長だったと記憶していますが、委員長は北電の瀬山さんという方で支店長さんでした。「白幡君」という言い方をさせていただきました。白幡君って言われると、小学校・中学校の女子によく言われていましたが、それ以来、ないものですからすぐ心地よいというか、なんて言うのか自分自身が素直になった40代だったと思います。

前半ですので、「白幡君、ちょっと委員会の話をしよう。ぜひ、うちの会社に来てくれ」。北電の支店長室に呼ばれて、支店長室で委員会の打ち合わせをしました。北電の支店長室ですので緊張して、なにか舞い上がってしまって、コーヒーもあまり味を覚えていないぐらい。それでも瀬山さんはとても優しい方で、その後は「委員会を自分の公宅でやろう」と。弥生町にある北電の公宅に委員会メンバーが集まって、それぞれお酒やお料理を持ち込んで委員会を開きました。

そうしますと、すごく距離感が近くなって、その後の情報集会、炉辺会合も当時、私の記憶ではたしか弥生町に日銀の公宅があり、そこで、支店長は福田さんだったと記憶していますが「せっかくの鉏路ですから炉端風にやりましょう」ということで炭火を起こしてサンマ。ちょうど脂が乗って美味しい時期だったものですから、お手伝いさんに焼いてもらったのです。そうすると公宅が煙だらけになっちゃって、もしかしたら火事の際の火災報知器が鳴る状況まで行ってしまいました。ですけども、皆さん仲が良く、本当に鉏路を楽しんでいただいて、そして結果的には福田さんは、ご存じかと思いますがカヌーまで買い込んで鉏路に何度

もいらっしゃっていると私は記憶しています。そんな意味で、当時の転勤族の方々とそういう近い関係を築けたことが記憶に残っております。

時間の関係もありますので最後に、シロアム産婦人科の高岡先生がおりました。その会員卓話には記憶がある方は記憶あるのでしょうか。産婦人科医ですので当然、リアルな画面で図解もされて説明していただきました。「ロータリーは、こんなこともするのだ」というような会員卓話ですので、職業奉仕というのですか。そういった面で若かったものですから非常に衝撃を受けた、そんなロータリーでございました。

時間の関係で、私はこれぐらいで次は、泉先生にバトンタッチしたいと思います。

どうもありがとうございました。

泉 敬君

とても長くなりました。私は昨年、60年の表彰をしていただいたわけですが、何で60年ここにいられるのか、と考えた時にいくつかの理由があるわけです。

私がロータリークラブに入会して62年になるのですが



1960年の数年前、ちょうど私の親父がこの会長やっていた時期がありました。その時にもともと鉏路クラブは鉏路市内で1つだったのですが、鉏路クラブが昔の丸三鶴屋があったあそこの3丁目と4丁目の間で、鉄北側と川の方のふたつに分割されたのです。

私が入会した数年前に北クラブができました。鉏路クラブから分かれて両角克治さんが創立者になって、鉏路クラブの当時の幹事から副会長まで全部を引き連れて北クラブを作ったという経過があったわけです。したがって、鉏路クラブのメンバーもおそらく半分近くに減ってしまった時代があったのです。その後は数年、若い人を入れなきゃいけないという問題があったのだと思うのです。

川口さんを覚えている方は結構おられると思うのですが、川口さんの話だと、「大正生まれの川口さんが入ったのも、分割して、すっかり減っちゃって、鉏路クラブで補充しようということで入った」という話を良くされていました。

私が入った時は、私が試験を終えて、修習生を終えて開業した年が昭和35年の春だったのです。このロータリーは同じ年の11月に入会しているのです。半年しか経っていないですね。

職業分類というのは今でもあるのですが当時は、職業分類を厳格にやっていたまして、「1業種1人」という基準で会員を入れていたことがあります。そんな関係

で、私の職業分類は弁護士なのですが、その当時、親父がメンバーとして入っておりましたので、この分類としては重複することになるのですが、シニアになっていたその枠は外れるということでした。私については、当時メンバーだった赤松さんという公証人が推薦者で入会手続が行われ、入会が認められたということです。

当時は、今もそうでしょうけど26歳で入会するというのは極めて少ない、あまり前例がないことなのですが、そのために私が今までの長い期間メンバーとして残ってこられたことの原因になるのです。

その他にいくつかの理由がありまして、業績などもその分割によって激減していたということが1つ。もう1つがロータリークラブというのは「役職を当てると断ってはいけない」というのがありまして、非常に断りにくいということです。私の仕事が代理を立てることもできない、代わってくれる人もいない、ということがあります。1人で事務所をやっていた関係もあり、多忙な仕事を引き受けることは困難だということで先輩が気を使ってくれて、外してくれていたのです。おかげでそういう大変な時期に大変な仕事からは外れるということで、会員として職責を果たすことが可能だったことがあります。そういう意味では優しい先輩が大勢いたということなのです。

ほとんど一世代が違うので、私が入会したとき昭和生まれの人は1人しかおられなかったです。誰がいたかという敷島商会の梁瀬さんです。今の梁瀬君のお父さんが私より1年先に入っていた若い年代ということで、昭和では1人だけだったのです。そういう関係もあって例会に出るのも大変な時代でした。難しいお父さんぐらいで、私の親父の年代の人がほとんどということで、テーブルに座っていても厳しい時代です。

私の仕事関係では、木曜日が例会で休みですから、これは昔から変わっていない。木曜クラブと戦後名前を変えてやった時期があったということなのですが、その延長線上にあって木曜日が例会日です。木曜日になると仕事の関係でできないという時がありますが、メイクアップということでは今あまり厳しく言わないのですが、メイクアップは各クラブが競っていたのです。これは、私が入会したときのクラブ会報を参考に持ってきたのですが、そのクラブ会報によると毎月各クラブはどれだけ出席したか全部が表になって出ているのです。そうすると今の7分区ばかりではなくて、350地区の中で競争するのです。他のクラブの出席率がどうなっているかが気になる。「出席率については100%が当たり前」という時代ですから、欠席するのが非常に難しい。そうすると私たちはどうするかと思ったら、自分の例会に出られなかったら、1週間に1回どこかでやっている例会場に行くことでカバーするのです。60年前を考えてみますと、できていたの

は北クラブの水曜日しかないのです。木曜日行けない時には水曜日に行く、どっちかにしようというスケジュールを組んでやっていきました。

そのうち、弟子屈クラブができ、厚岸ができたりして、そっちに行ってくることもありまして。それから札幌や東京に出張する時に、ついでに行ってみることもやっていました。遠くは京都東クラブですが、そのクラブの雰囲気はぜんぜん違って、各クラブがこんなに違うのかというのは行って見て、初めて分かるということです。

先ほどの話に出ていた村上さんという方は恐らく200%くらいの出席だったと思うのです。なぜそれだけ行ったかという、ほとんどはメイクアップなのです。自分のクラブにばかり出るのではなくて、全国を歩いています。この方は本当のチャーターメンバーなのです。リチャーターの時はもちろん行ったのですが、亡くなるまでずっと出席。

私が出席でいちばん言っておきたいのは、あの人はロータリーの記録を全部取っているのです。記録を取って、それを全部まとめてくれて、村上さんは亡くなる時に全部を当時の責任者だった方に渡したと思うのです。

皆さん、記録がどうなっているか分かりますか。いま私が気になっているのは、手元に50周年、60周年、70周年、80周年の記録は本になってありますが、その前はないのです。恐らく発行していないのではないかと思います。誰か持っておられる方いれば別ですが、配布されたものとしては残っていないのではないかと思います。

資料というのはそこで失われると、なくなってしまうのです。私は青年会議所にいたのですが、青年会議所時代にやっぱり記録が必要なことがありまして、古い10周年から20周年を全部集めて、青年会議所卒業したあと必要があって、ときの会長に渡して、全部引き継いでくれるように話をしたのですが、どれもどこへ行ったのか分からなくなって。

記録の係を決めてやらなければ、これは恐らく駄目だと。ロータリーの記録もそうだと思うので、その辺も今後気をつけて大事にしておくようにしていただきたいなど。特別な委員会でも作らないと難しいかもしれません。そんなことを感じております。いろいろありますけれど時間がありますので、これで終わらせていただきます。どうも失礼しました。



本日のニコニコ献金

- 高橋 直人君 昨日、北海道新聞「釧根ビジネス探訪」に弊社の取り組みが紹介されました。
- 水口 喜文君 この度の父の葬儀に際し、ご参列頂き、またご供花、ご香料を賜りありがとうございました。落ち着きましたら、復帰させていただきます。

今年度累計 160,000 円